

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	サンキ・ウエルピィ グループホーム周南		
所在地	周南市遠石一丁目10番57号		
電話番号	0834 - 27 - 6785	事業所番号	3591500032
法人名	サンキ・ウエルピィ株式会社		

訪問調査日	平成 21 年 3 月 25 日	評価確定日	平成 21 年 6 月 19 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	18 人	常勤 7 人 非常勤 11 人 (常勤換算 16 人)	

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄筋 造り	
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

(3)利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家 賃	月額 50,000 ~ 52,000 円	敷 金	無	円
保 証 金	有 / 無 150,000 ~ 156,000 円	償却の有無	無	
食 費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
その他の費用	月額	20,000 円		
	内訳	光熱水費		

(4)利用者の概要 (3 月 25 日現在)

利用者数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
	要介護 1	7	要介護 4 2
	要介護 2	5	要介護 5 1
	要介護 3	3	要支援 2
年齢	平均 83 歳	最低 70 歳	最高 90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医科 徳山中央病院 千々松内科 歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

街の中心に位置しており、家族、地域ボランティアの方の来所も多く、地域に開かれたホームをめざしておられます。利用者一人ひとりの個性を尊重され、職員は声かけもさりげなく穏かにやさしく接しておられ、利用者も落ち着いた雰囲気が出えしました。重度化した場合における対応の指針を作成され、契約時からよく説明され家族と看取り介護について話し合いをしておられます。法人本部とも連携をとり内部研修を計画的に実施されサービスの質の向上を図っておられます。

(特徴的な取組等)

地域のボランティアの協力もあり、習字を月2回、音楽療法、手品、貼り絵、健康体操や敷地内の畑で野菜や花の栽培等多くの楽しみごとの支援に取り組まれています。三食ともホームで調理され、毎日調理専門スタッフを配置し、その間職員は、ゆったりと利用者に関わる支援をされていました。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回評価結果の運営推進会議のメンバーの拡大や防災に地域の協力等を検討され、できるところから改善に取り組まれました。

(今回の自己評価の取組状況)

評価の意義を職員全員が理解しておられ、今回、自己評価書を各自に記入してもらい、運営者、管理者とも話し合いをされ作成されています。

(運営推進会議の取組状況)

運営推進会議は2ヵ月に1回、民生委員、市職員、地域包括支援センターの職員、ボランティア代表、介護相談員、家族代表、管理者、職員等で開催されています。評価の報告、現状説明や情報交換をし、サービスの質の向上に活かしておられます。

(家族との連携状況)

「グループホーム周南だより」に行事予定等を載せ、利用明細書と一緒に毎月送付しておられます。面会の方も多く、その時に利用者の暮らしぶりや健康状態など詳しく報告されたり、遠方の方には電話等で対応されています。家族会を年3回開催し交流されています。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、地域の夏祭り、餅つき大会、草刈や小学校の運動会に参加し交流しておられます。散歩や買物時に挨拶をし地域の方が気軽に立ち寄ってもらえるよう声かけをしておられます。

評価結果

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の理念を基にして、職員全員で話し合い、「個人を尊重し笑顔を絶やさない生きがいのある生活を提供します。家族と共同で地域に開かれたサービスを提供します。」と、ホーム独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を事務所内に掲示し、毎日、申し送り時に唱和を行い職員全員が共有し、実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
3 (7)	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、地域の夏祭り、餅つき大会、草刈や小学校の運動会に参加し交流している。散歩や買物時に挨拶をし地域の人が気軽に立ち寄ってもらえるよう声かけをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4 (9)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を全職員が理解し、前回評価結果の運営推進協議会のメンバー拡大、防災に地域の協力等を検討し改善した。今回、自己評価書を各自に記入してもらい、運営者、管理者とも話し合い作成した。		
5 (10)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議は2ヵ月に1回、民生委員、市職員、地域包括支援センターの職員、ボランティア代表、介護相談員、家族代表、管理者、職員等で開催している。評価の報告、現状説明や情報交換し、サービスの向上に活かしている。		
6 (11)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者に相談したり、出前講座等を利用し、市職員と連携し質の向上に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	「グループホーム周南だより」に行事予定や誕生会の案内等載せ、利用明細書と一緒に送付している。面会も多く、面会時や電話で利用者の暮らしぶりや健康状態を個々に詳しく報告している。	
8 (18)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情相談受け付け窓口の職員、外部機関も明示し、苦情相談処理手続きも明確にしているが、第三者委員は選任していない。	○ ・第三者委員の選任
9 (20)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日中3名体制で、早出、遅出により柔軟に対応し、緊急の場合は職員間で調整している。	
10 (21)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者が馴染みの職員による支援が受けれるよう異動は最小限にしている。普段から2ユニット間で交流し、交代する場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修は、法人の方針で計画的に月1回開催している。外部研修は呼びかけているが勤務の一環ではなく、自主参加となっている。	○ ・勤務の一環としての外部研修の提供
12 (24)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会、地域連絡会に加入し、他のグループホームとの勉強会や交流会等に参加し情報交換しサービスの質の向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が安心して家族と見学してもらい、お茶会等に誘ったり、家族から暮らし方について情報をよく聞き馴染めるように工夫している。	
の情報			
14 (32)	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者と一緒に過ごすなかから、書の上手な利用者、得意な調理等を教わり支え合う関係を築いている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者と食事をしながらや日常会話から本人の意向を汲み取ったり、家族の面会時に、希望や意向を聞き本人本位に検討している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の要望を担当者が聞き、月1回のカンファレンス時に職員全員で話し合い介護計画を作成している。	
17 (42)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画は3ヵ月毎に見直し、状態の変化が生じた時は担当者会議を開催し、利用者、家族と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者や家族の要望に応じ、図書館、美容院への付き添い、地域行事の参加、医療受診等柔軟に対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者、家族等の希望を聞き、かかりつけ医や協力医との関係を築き、適切な医療を受けられるように支援している。	
20 (53)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の対応指針を作成し、入居の際説明し、看取り介護に関する同意書を取っている。利用者、家族やかかりつけ医とよく話し合い職員間で方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーの確保の徹底や接遇についての研修やミーティング等で話し合い実践に取り組んでいる。記録等個人情報は、事務室に保管し配慮している。	
22 (59)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にし、起床時間、食事時間等希望に沿った柔軟な支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と職員が食事を一緒に作り、盛り付け、配膳、後片付けなど、一人ひとりの力を活かした支援をしている。三食ともホームで調理し、毎日調理専門スタッフが対応している。普段調理に参加していない人も、お好み焼きや餃子等を作る時は楽しんで一緒にしている。	
24 (64)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	毎日、入浴可能であるが、本人の入浴希望を確認して一人ひとりゆっくり入れるように支援している。入浴時間は、昼間であるが、利用者の状況により夜間に対応することもある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の得意分野を活かして、月2回の習字教室、音楽療法、歌、リズム体操、手品等ボランティアの協力を得ての楽しみ事や園芸、調理、掃除等活躍できる場面を支援している。	
26 (68)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望や体調に配慮し、天気の良い日は、近隣の公園や神社(遠石八幡宮)等への散歩、外食、ドライブ等戸外に出かけるようにしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する勉強会を月1回開催し、職員間で共通認識を図り、拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	新入職員の教育時から鍵をかける弊害について、職員全員が理解し、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、事故・ヒヤリはっと報告書を整備し、カンファレンス時に改善策や防止策を話し合い共有し、一人ひとりにあった事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の行う救命救急講習を職員全員が受講し、応急手当等は日頃から研修し事故発生に対応できるようにしている。	
31 (81)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、消防署の災害非難訓練を定期的に行い、地域の民生委員に協力を依頼し参加を得ている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組みを期待 したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
33 (86)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
34 (87)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
35 (88)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		
37 (93)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	サンキ・ウエルビー グループホーム周南
所在地	周南市遠石1丁目10番57号
電話番号	0834-27-6785
開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

近隣に遠石八幡宮、緑地公園があり、天気の良い日には参拝やドライブに出かけています。明るく、元気に、楽しくをモットーに利用者の方に笑顔で過ごして頂ける様に、職員一同支援させていただいております。街の中心に位置しており、家族の面会も多く、利用者も安心して生活されています。自然のふれあいとして、敷地内の畑で野菜や花の栽培を行ったり、歌やリズム体操などの音楽療法を行っています。また、月2回の習字教室を楽しみにされている方もあります。地域のボランティアの方も気軽に立ち寄っていただき、話し相手や歌を披露していただいています。毎日笑顔のある生活を過ごしていっていただけるよう努めています。

【実施ユニットの概要】 (2 月 1 日現在)

ユニットの名称	1F				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの利用者数	9 名		男性 2 名	女性 7 名	
	要介護 1	3		要介護 4	2
	要介護 2	3		要介護 5	1
	要介護 3	0		要支援 2	0
年齢構成	平均 82 歳	最低 76 歳	最高 90 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	運営者、管理者、職員で話し合い取り組みました。
評価確定日	平成 年 月 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	<u>○地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	<u>○理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	<u>○運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	<u>○運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	<u>○家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
6	<u>○隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	<u>○地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	○	出来るだけ地域の行事に参加し、ふれあうと共に私達のグループホームを知って頂ける様にしていきたい。
8	<u>○事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
10 (5)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	○	参加者からの意見を大事にして、日々のケアに活かしていきたい。
11 (6)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16 (7)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	○	面会時間を利用し、職員の顔写真と氏名も公表していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 〇情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	家族等の希望により面会簿、支援経過記録を提示し、情報開示に応じている。		
18 (8) 〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会、運営推進会議に参加していただき、意見をいただいている。相談、苦情については契約の際、説明を行っている。		
19 〇運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回職員会議を開き意見交換を行っている。		
20 (9) 〇柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態や、グループホームの行事に合わせて、柔軟なシフトを組んでいる。	○	行事を行う際、事故のないように、ボランティアを含めた体制をとっていきたい。
21 (10) 〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	出来るだけ利用者が、不安にならないように異動は最小限にしている。普段から1階、2階一緒の行事を行い、職員も同じように声かけを行っている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	グループホーム内で研修を行ったり、地域の研修会へ参加を呼びかけている。		
23 〇職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20代から60代の職員で、意見も異なるが、利用者のニーズに答えるようにしている。		
24 (12) 〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホームの勉強会や、交流会等には出来るだけ参加してコミュニケーションを図っている。	○	お互いの良いところは吸収し、サービスを向上させていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	〇職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	出来るだけ話し合いの場がもてるように努めている。又クリスマス会や新年会など、親睦の場を設けている。		
26	〇向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員に役割分担を決め、各自が責任をもって行えるようにしている。		
27	〇職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	それぞれの個人レベルに合わせながら、処遇面において対応している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	〇初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前にグループホームを見学してもらい、家族、本人より希望を聞くようにしている。		
29	〇初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居の相談に来られた時、ホーム内を見て頂き、時間の許す限り相談に応じている。	○	家族の不安をゆっくりと聴けるような、体制作りをしていきたい。
30	〇初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要な場合は、他の施設を紹介したり、出来る限り情報提供に応じるようにしている。		
31 (13)	〇馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	グループホームの環境に早く馴染んで頂ける様に配慮し、家族等にも面会も多くして頂けるように説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	出来る事は性別を問わず、掃除、片付けなどを一緒に行い、本人から学んだり支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<u>〇本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	<u>〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	〇	利用者が安心して過ごせるように、家族とのコミュニケーションを多くとっていききたい。
35	<u>〇馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	<u>〇利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	〇	耳が遠く、コミュニケーションがとりにくい方の孤立が目立つため皆の輪の中に入れるよう職員がとりもっている。
37	<u>〇関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<u>〇思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	〇	一人ひとりに関わる時間がもう少し多く取れるよう考えていきたい。
39	<u>〇これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	<u>〇暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	〇	今後も個別ケアに取り組んでいきたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
41 (16)	○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
42 (17)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
43	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	○	民生委員、ボランティアなど、いつでも協力の得られる体制づくりをしていきたい。
46	○事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等）。		
47	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	〇地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	一人ひとりの利用前の受診の経過、現在の受診の希望を把握して、今までのかかりつけ医や希望する医療機関での受診支援が出来るよう支援していく。
50	〇認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		まだまだ認知症専門の先生が少ないので、グループホームでの様子もきちんと伝えていかなくてはならないと考える。
51	〇看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	体調の変化に気付いた場合は、すぐに看護師に相談し、対応していく。
52	〇早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	〇重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	〇住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	○	入居希望時にリロケーションダメージについて十分な説明を行っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	研修の場を設け、プライバシーの確保の徹底に取り組んでいる。又、接遇の研修も行っている。	
57	〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の思いに出来るだけ寄り添い、希望に添うよう心掛けている。	
58	〇“できる力”を大切にしたい家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	一緒に家事を行い、その方の残存能力を大切にしている。(餃子作りなど)	
59 (22)	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事を計画するが、静かな環境を好む方には、個室で過ごしていただいている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	家族の協力を得て、かかりつけの美容院に行ったり、訪問理美容を利用している。衣類の管理は家族の協力を得て衣替えなど季節にあった衣類を用意している。	
61 (23)	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に料理をしたり片付けを職員と共に行っている。	
62	〇本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	ビールを飲む事はあるが、タバコはない。おやつや外食など利用者の好みを取り入れ、日常的に楽しみながら支援している。	〇 誕生日等にはできるだけ本人の嗜好を考えていきたい。
63	〇気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の排泄パターンを記録し本人の負担の少ない方法をカンファレンス等で検討し、支援するよう心がけている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<u>〇入浴を楽しむことができる支援</u> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	一人ひとりゆっくり入っていただけるよう、個別入浴としている。		
65	<u>〇安眠休息の支援</u> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	本人が安心して休息できるよう、室温調節や明かりの調節など本人と相談しながら対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<u>〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援</u> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事仕事やレクリエーションなど楽しみの場面を見つけるよう支援している。	○	出来ること、個別の役割を多く増やしていきたい。
67	<u>〇お金の所持や使うことの支援</u> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者が好みのものを買えるよう、職員と共に買い物に出かけている。		
68 (26)	<u>〇日常的な外出支援</u> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には近くの境内まで散歩したり、ドライブなどに出かけている。	○	外出の機会を出来るだけ多くとりたい。
69	<u>〇普段行けない場所への外出支援</u> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	職員と一緒に出かけられるよう外出支援の体制をつくっている。		
70	<u>〇電話や手紙の支援</u> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人からの希望があれば随時、対応している。		
71	<u>〇家族や馴染みの人の訪問支援</u> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自室を利用して個別に話ができるよう配慮している。また、ソファなどを利用してロビー内で落ち着いた空間作りを心掛けている。		
72	<u>〇家族の付き添いへの支援</u> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	できるだけゆっくり過ごしてもらえるように支援しているが、現在の所、宿泊希望者はいない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	夏祭りや誕生会など家族の参加を呼びかけている。	○	出来るだけ家族にも参加していただける行事を行っていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	出来る限り抑制のない環境を提供できるよう対応している。 現状では、安全のため出入口1箇所施錠している。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の状態に合わせて鍵を開ける時間を作るようにしている。		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	申し送りを通して利用者の様子を把握し、昼夜安全確保している。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	日中、はさみを使用してもらうこともあるが、夜間は職員が保管し、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ・ハット事例検討会を開き、再発防止に努めている。	○	研修を継続し、再発防止に向けて意識改革としてヒヤリ・ハット事例検討会を今後も開いていく。
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の研修に参加をして緊急対応ができるようにしている。		
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリ・ハット事例検討会を行い、全職員で再発防止のための改善策を講じている。	○	自己責任において再発防止に取り組むたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	○	看護師を中心に早期受診に努めていく。
84 (32)	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	○	服薬時に本人に手渡し、きちんと服用できているか最後まで確認する。
85	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	○	繊維質の多い食材を食事やおやつメニューに取り入れたり、散歩、家事仕事等で身体を動かし、自然排便ができる様取り組んでいく。
86 (33)	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	○	毎食後のハミガキ、入れ歯の管理、手入れを確実にできるように支援していく。必要なら歯科往診を依頼する。
87 (34)	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	○	予防接種の徹底を図っていきたい。
89	〇食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	○	冷蔵庫の整理日を定める等、残ってしまった食材が古くならないよう、無駄なく使用できる工夫をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関入り口にはスロープがあり、階段には手すりが取り付けられている。季節の花などを置き、やわらかい雰囲気作りを心掛けている。	
91 (36)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節の花や飾り付けを行い、四季を感じとって頂ける様配慮している。換気を行い臭いがこもらないよう工夫している。	
92	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル、ソファの位置を替えるなどして、居場所の工夫をしている。	
93 (37)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来るだけ使い慣れた物を持ち込んでいただくよう、家族と相談し工夫している。	
94	〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上のよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	湿度、温度計を利用し、室温や湿度に気を配りながら、定期的に換気している。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	利用者に合わせて、手すり、エレベーターを利用してもらっている。歩行困難な方には、歩行器、車椅子を利用させていただき自立した生活ができるよう工夫している。	
96	〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来るだけ本人に寄り添うケアを行い、安心して生活できるように工夫している。	
97	〇建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前の掃除、畑の草取りを利用者と共に行っている。建物の外に鉢植えをしたり、畑の収穫をしている。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの ☒ ②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	☒ ①毎日ある ③たまにある ☐ ②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ☒ ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ☒ ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ☒ ③利用者の1/3くらいが ☐ ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ☒ ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ☒ ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと ☒ ②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	☒ ①ほぼ毎日のように ③たまに ☐ ②数日に1回程度 ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	☒ ①大いに増えている ③あまり増えていない ☐ ②少しずつ増えている ④全くいない
108 職員は、生き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが ☒ ②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ☒ ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが ☒ ②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	サンキ・ウエルビー グループホーム周南
所在地	周南市遠石1丁目10番57号
電話番号	0834-27-6785
開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

近隣に遠石八幡宮、緑地公園があり、天気の良い日には参拝やドライブに出かけています。明るく、元気に、楽しくをモットーに利用者の方に笑顔で過ごして頂ける様に、職員一同支援させていただいております。街の中心に位置しており、家族の面会も多く、利用者も安心して生活されています。自然のふれあいとして、敷地内の畑で野菜や花の栽培を行ったり、歌やリズム体操などの音楽療法を行っています。また、月2回の習字教室を楽しみにされている方もあります。地域のボランティアの方も気軽に立ち寄っていただき、話し相手や歌を披露していただいています。毎日笑顔のある生活を過ごしていっていただけるよう努めています。

【実施ユニットの概要】 (2 月 1 日現在)

ユニットの名称	2F			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 4 名	女性 5 名	
	要介護 1	4	要介護 4	0
	要介護 2	2	要介護 5	0
	要介護 3	3	要支援 2	0
年齢構成	平均 84 歳	最低 70 歳	最高 90 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	運営者、管理者、職員で話し合い取り組みました。
評価確定日	平成 年 月 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	住み慣れた地域で安心した暮らしが続けられるよう、地域密着型サービスの役割を職員全員で認識し、理念をつくっている。	
2 (2)	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日、申し送り時に職員一同による唱和を行い、実践に向けて取り組んでいる。	
3	○運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	月1回のミーティングや随時個別面談を行い理念に沿った援助が行えるよう職員の質の向上に心掛けている。	
4	○運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	定期的に職員会議を開き、意見交換を行い、ケアの統一やサービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。	
5	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	事業所内に理念を掲示し、折に触れ伝えている。地域の集まりにも出来るだけ参加し理解してもらえよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
6	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	散歩や外出の際、挨拶を行い気軽に立ち寄ってもらえるように声掛けを行っている。行事等には、パンフレットを配っている。	
7 (3)	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の夏祭り、運動会などに利用者と共に参加し交流に努めている。	○出来るだけ地域の行事に参加し、ふれあうと共に私達のグループホームを知って頂ける様にしていきたい。
8	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ボランティアの受け入れを随時行い地域の方のふれあいの場となっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
10 (5)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	○	参加者からの意見を大事にして、日々のケアに活かしていきたい。
11 (6)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16 (7)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	○	面会時間を利用し、職員の顔写真と氏名も公表していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	○	行事を行う際、事故のないように、ボランティアを含めた体制をとっていきたい。
21 (10)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
23	○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○	お互いの良いところは吸収し、サービスを向上させていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	○	家族の不安をゆつくりと聴けるような、体制作りをしていきたい。
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<u>○本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	<u>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	○	利用者が安心して過ごせるように、家族とのコミュニケーションを多くとっていきたい。
35	<u>○馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	<u>○利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	○	耳が遠く、コミュニケーションがとりにくい方の孤立が目立つため皆の輪の中に入れるよう職員がとりもっている。
37	<u>○関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

38 (15)	<u>○思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	○	一人ひとりに関わる時間がもう少し多く取れるよう考えていきたい。
39	<u>○これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	<u>○暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	○	今後も個別ケアに取り組んでいきたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41 (16)	○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
42 (17)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
43	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	○	民生委員、ボランティアなど、いつでも協力の得られる体制づくりをしていきたい。
46	○事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等）。		
47	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	一人ひとりの利用前の受診の経過、現在の受診の希望を把握して、今までのかかりつけ医や希望する医療機関での受診支援が出来るよう支援していく。
50	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		まだまだ認知症専門の先生が少ないので、グループホームでの様子もきちんと伝えていかなくてはならないと考える。
51	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	体調の変化に気付いた場合は、すぐに看護師に相談し、対応していく。
52	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	○	入居希望時にリロケーションダメージについて十分な説明を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	<u>○プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	☐	
57	<u>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	☐	
58	<u>○“できる力”を大切にしたい家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	☐	
59 (22)	<u>○日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	☐	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<u>○身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	☐	
61 (23)	<u>○食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	☐	
62	<u>○本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	☐	誕生日等にはできるだけ本人の嗜好を考えていきたい。
63	<u>○気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	☐	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<u>○入浴を楽しむことができる支援</u> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりゆっくり入っていただけるよう、個别人浴としている。		
65	<u>○安眠休息の支援</u> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	本人が安心して休息できるよう、室温調節や明かりの調節など本人と相談しながら対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<u>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</u> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事仕事やレクリエーションなど楽しみの場面を見つけるよう支援している。	○	出来ること、個別の役割を多く増やしていきたい。
67	<u>○お金の所持や使うことの支援</u> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者が好みのものを買えるよう、職員と共に買い物に出かけている。		
68 (26)	<u>○日常的な外出支援</u> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には近くの境内まで散歩したり、ドライブなどに出かけている。	○	外出の機会を出来るだけ多くとりたい。
69	<u>○普段行けない場所への外出支援</u> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	職員と一緒に出かけられるよう外出支援の体制をつくっている。		
70	<u>○電話や手紙の支援</u> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人からの希望があれば随時、対応している。		
71	<u>○家族や馴染みの人の訪問支援</u> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	白室を利用して個別に話ができるよう配慮している。また、ソファなどを利用してロビー内で落ち着いた空間作りを心掛けている。		
72	<u>○家族の付き添いへの支援</u> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	できるだけゆっくり過ごしてもらえるように支援しているが、現在の所、宿泊希望者はいない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 ○ <u>家族が参加しやすい行事の実践</u> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	夏祭りや誕生会など家族の参加を呼びかけている。	○	出来るだけ家族にも参加していただける行事を行っていきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) ○ <u>身体拘束をしないケアの実践</u> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	出来る限り抑制のない環境を提供できるよう対応している。現状では、安全のため出入口1箇所施錠している。		
75 (28) ○ <u>鍵をかけないケアの実践</u> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の状態に合わせて鍵を開ける時間を作るようにしている。		
76 ○ <u>利用者の安全確認</u> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	申し送りを通して利用者の様子を把握し、昼夜安全確保している。		
77 ○ <u>注意の必要な物品の保管・管理</u> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	日中、はさみを使用してもらうこともあるが、夜間は職員が保管し、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29) ○ <u>事故防止のための取り組み</u> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ・ハット事例検討会を開き、再発防止に努めている。	○	研修を継続し、再発防止に向けて意識改革としてヒヤリ・ハット事例検討会を今後も開いていく。
79 (30) ○ <u>急変や事故発生時の備え</u> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の研修に参加をして緊急対応ができるようにしている。		
80 ○ <u>再発防止への取り組み</u> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリ・ハット事例検討会を行い、全職員で再発防止のための改善策を講じている。	○	自己責任において再発防止に取り組むたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	○	看護師を中心に早期受診に努めていく。
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	○	服薬時に本人に手渡し、きちんと服用できているか最後まで確認する。
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	○	繊維質の多い食材を食事やおやつメニューに取り入れたり、散歩、家事仕事等で身体を動かし、自然排便ができる様に取り組んでいく。
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	○	毎食後のハミガキ、入れ歯の管理、手入れを確実にできるように支援していく。必要なら歯科往診を依頼する。
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	○	予防接種の徹底を図っていきたい。
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	○	冷蔵庫の整理日を定める等、残ってしまった食材が古くならないよう、無駄なく使用できる工夫をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関入り口にはスロープがあり、階段には手すりが取り付けられている。季節の花などを置き、やわらかい雰囲気作りを心掛けている。	
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節の花や飾り付けを行い、四季を感じとって頂ける様配慮している。換気を行い臭いがこもらないよう工夫している。	
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル、ソファの位置を替えるなどして、居場所の工夫をしている。	
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来るだけ使い慣れた物を持ち込んでいただくよう、家族と相談し工夫している。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	湿度、温度計を利用し、室温や湿度に気を配りながら、定期的に換気している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	利用者に合わせて、手すり、エレベーターを利用してもらっている。歩行困難な方には、歩行器、車椅子を利用させていただき自立した生活ができるよう工夫している。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来るだけ本人に寄り添うケアを行い、安心して生活できるように工夫している。	
97	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前の掃除、畑の草取りを利用者と共に行っている。建物の外に鉢植えをしたり、畑の収穫をしている。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	☐ ①ほぼ全ての利用者の ☐ ③利用者の1/3くらいの ☒ ②利用者の2/3くらいの ☐ ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	☒ ①毎日ある ☐ ③たまにある ☐ ②数日に1回程度ある ☐ ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ③利用者の1/3くらいが ☒ ②利用者の2/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ③利用者の1/3くらいが ☒ ②利用者の2/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☒ ③利用者の1/3くらいが ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ③利用者の1/3くらいが ☒ ②利用者の2/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ③利用者の1/3くらいが ☒ ②利用者の2/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	☐ ①ほぼ全ての家族等と ☐ ③家族の1/3くらいと ☒ ②家族の2/3くらいと ☐ ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	☒ ①ほぼ毎日のように ☐ ③たまに ☐ ②数日に1回程度 ☐ ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	☒ ①大いに増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ②少しずつ増えている ☐ ④全くいない
108 職員は、生き活きと働いている。	☐ ①ほぼ全ての職員が ☐ ③職員の1/3くらいが ☒ ②職員の2/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ③利用者の1/3くらいが ☒ ②利用者の2/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	☐ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ③家族等の1/3くらいが ☒ ②家族等の2/3くらいが ☐ ④ほとんどできていない